

用途

公共施設建築物の長期耐久性が求められる金属面の塗装仕上げ

特長

- 1) 耐候性・耐汚染性が非常に優れている
- 2) 耐塩水性が優れている
- 3) 耐油性が優れている
- 4) 防カビ性、防藻性を有している
- 5) 内外部に幅広く適用可能
- 6) 光沢・肉持ち感が良い
- 7) 乾燥が早い
- 8) 塗料用シンナーで希釈可能で、臭気が少なく作業環境に優れる
- 9) 鋼構造物用耐候性塗料、中塗り塗料との付着性が優れている

塗料性状

項目	内容
1 荷姿	15kgセット ベース 12.9kg 硬化剤 2.1kg 3.5kgセット ベース 3.0kg 硬化剤 0.5kg
2 混合比	ベース/硬化剤=6/1
3 色	各色
4 つや	つや有り、5分つや、3分つや (JIS K 5659適合はつや有りのみ)
5 仕上がり感	平滑
6 塗料比重	1.22(白)
7 溶剤比重	0.84
8 加熱残分	60%(白)
9 劇物表示 (品名・含有量)	—
10 労安法上の 表示有害物	ベース:キシレン、エチルベンゼン 硬化剤: —
11 有機則/特化則	ベース:第3種有機溶剤等 硬化剤:第3種有機溶剤等
12 消防法による危険物区分	ベース:第4種 第2石油類(非水溶性) 硬化剤:第4種 第2石油類(非水溶性)
13 硬化剤の成分による区分	イソシアネート

注)上記の数値は標準を示すもので、若干の変動があります。

塗装条件

塗装方法	はけ	ローラー	エアレス
希釈率	0~10%	0~10%	5~10%
塗付け量 kg/m ² /回	0.10	0.10	0.10
希釈剤	塗料用シンナーA		

「塗付け量」は、公共建築工事標準仕様書及び公共建築改修工事標準仕様書に記載されている数値です。平らな面に実際付着させる塗料の標準量(希釈する前)のことで、塗装時に飛散したり、塗装用具や容器に残る分(ロス)を含んでいません。またこの数値は被塗物の形状や塗装条件などによって増減することがあります。

塗装間隔

項目	気温	23℃
標準塗装間隔	最短	4時間
	最長	7日
使用時限		8時間

「使用時限」とは、ベースと硬化剤を混合してから正常に塗装できる時間のことで、これを超えると固まって塗装できなくなったり、塗装できたとしても本来の性能が発揮できないことがあります。ベースと硬化剤混合後は、必ずこの時間内に本品を使い切ってください。

適用素材

鉄、亜鉛めっき

適用下塗塗料

セラMDP中塗

使用上の注意事項

- ベースと硬化剤を規定の混合比率で配合した後、十分攪拌した後で塗装に使用してください。
- ベースと硬化剤の混合比率が合っていない場合には、耐久性等の諸性能に影響するおそれがありますので正確に計量し配合して下さい。
- ベースと硬化剤を混合した塗料は、使用時限(ポットライフ)内に使用してください。使用時限を過ぎたものを使用すると性能低下などの不具合を起こすおそれがありますので廃棄してください。
- 塗料の希釈時は必ず「塗料用シンナーA」を使用してください。
- 材料は規定する希釈率範囲を厳守し、電動ミキサーなどを用いて内容物が均一になるよう十分に攪拌してから使用ください。
- 塗料の希釈に「塗料用シンナーA」以外のシンナーを使用した場合、再溶解やチヂミ等の不具合を生じることがあります。
- 鮮やかな赤系、黄系、青系、緑系の色で仕上げる場合は、隠ぺい性の良い共色で「セラMDP中塗」を塗装してください。
- 塗料をシンナーで薄めすぎるとつや引けやダレなど仕上りに異常をきたすおそれがありますのでご注意ください。
- 開栓後の塗料はできるだけ早く使い切ってください。また使用した塗料を元の塗料容器に戻さないでください。
- 硬化剤は湿気、水分と反応しゲル化・変質しますので、開栓後は速やかに使い切ってください。
- 濃彩色仕上げの際、雑巾ウエス等で強くこすると、色落ちや艶変化が起こる場合があります。衣類などが触れる部位への塗装は避けてください。
- 可塑剤が多く含まれる部材(塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチックなど)への直接塗装は避けてください。粘着や軟化が生ずるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。
- 当社指定以外の材料を混合しないでください。仕上り性、付着性、耐久性など性能に支障をきたすおそれがあります。
- 塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。
- 刷毛やローラーを共用で使用するとハジキ等が発生する場合がありますので、製品ごとに専用とするか、十分に洗浄後よく乾燥させたうえでご使用ください。
- 塗料が付着した布ウエス、紙、ローラーは引火、発火を防止するため水に浸漬するなどして安全対策を行ってください。

【新設】18章 塗装工事 7節 耐候性塗料塗り(DP)

新設 鉄鋼面耐候性塗料塗り 上塗り塗料1級仕上げ

工程	塗料その他			製品名 希釈剤	希釈率(%)	塗付け量*1 kg/m ²	塗装間隔*2 (23℃)
	規格番号	規格名称	種類				
素地ごしらえ B種	油類は、溶剤がきにより除去する。 錆は、プラスト法により除去する。			—	—	—	—
1 下塗り (1回目)	JIS K 5552	ジンクリッチプライマー	2種	SDジンク100 SDジンクシンナー	100 0~20	0.14	16時間以上 6ヶ月以内
2 下塗り (2回目)	JIS K 5551	構造物用さび止めペイント	A種	エスコ テクトEPシンナー	100 0~10	0.14	8時間以上 1ヶ月以内
3 下塗り (3回目)	JIS K 5551	構造物用さび止めペイント	A種	エスコ テクトEPシンナー	100 0~10	0.14	8時間以上 1ヶ月以内
4 研磨紙すり	研磨紙P120~220			—	—	—	—
5 中塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候性塗料	A種 中塗り塗料	セラMDP中塗 塗料用シンナーA	100 0~10	0.14	4時間以上 10日以内
6 上塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候性塗料	A種 上塗り塗料1級	セラMフッソDP 塗料用シンナーA	100 0~10	0.10	—

(注) 工程6まで製作工場で行う場合は、工程4を省略する。

(1) 下塗りは、製作工場において組立後に行う。ただし、組立後塗装困難となる部分は、組立前に下塗りを行う。

(2) 製作工場で溶接した箇所は、ディスクサンダー又は研磨紙P120程度で金属素地面が現れるまで錆等を除去し、「エスコ」を3回塗る。

(3) 現場組立後、現場溶接部及び組立中の下塗り損傷部分は、ディスクサンダー又は研磨紙P120程度で金属素地面が現れるまで錆等を除去し、「エスコNBマイルド」を3回塗る。

新設 亜鉛めっき面耐候性塗料塗り 上塗り塗料1級仕上げ

工程	塗料その他			製品名 希釈剤	希釈率(%)	塗付け量*1 kg/m ²	塗装間隔*2 (23℃)
	規格番号	規格名称	種類				
素地ごしらえ B種	汚れ、付着物はスクレーパー、ワイヤブラシ等で除去する。 油類は、溶剤がきで除去する。			—	—	—	—
1 下塗り	JASS 18 M-109	変性エポキシプライマー	—	エスコNBマイルド 塗料用シンナーA	100 0~10	0.14	8時間以上 1ヶ月以内
2 研磨紙すり	研磨紙P120~220			—	—	—	—
3 中塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候性塗料	A種 中塗り塗料	セラMDP中塗 塗料用シンナーA	100 0~10	0.14	4時間以上 10日以内
4 上塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候性塗料	A種 上塗り塗料1級	セラMフッソDP 塗料用シンナーA	100 0~10	0.10	—

(注) 1. 工程4まで製作工場で行う場合は、工程2は省略する。

2. 鋼製建具の下塗りの工程は、以下の通り。

(1) 見え隠れ部分は、組立前の部材のうちに下塗りを行う。また、見え掛り部分は、組立後、溶接箇所等を修正し、ディスクサンダー又は研磨紙P120程度で研磨し、下塗りを行う。

(2) 工事現場において取付け後、汚れ及び付着物を除去し、損傷部分は、ディスクサンダー又は研磨紙P120程度で金属素地面が現れるまで錆等を除去し、「エスコNBマイルド」を1回塗る。

(3) 鋼製建具に用いる鋼板類で鉄鋼面の場合は、新設 鉄鋼面耐候性塗料塗りの工法による。

【改修】7章 塗装改修工事 8節 耐候性塗料塗り(DP)

改修 鉄鋼面耐候性塗料塗り B種^{※3} 上塗り塗料1級仕上げ

工程	塗料その他			製品名 希釈剤	希釈率(%)	塗付け量 ^{※1} kg/m ²	塗装間隔 ^{※2} (23℃)	
	規格番号	規格名称	種類					
下地調整 B種	1	既存塗膜の除去						ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化しづらい弱な部分及び錆等を除去し、活膜は残す。
	2	汚れ・付着物除去						素地を傷つけないようにワイヤブラシ等により、除去する。
	3	油類除去						溶剤ぶき
	4	研磨紙すり						研磨紙 P120~220で全面を平らに研磨する。
1	下塗り (1回目)	JASS 18 M-109	変性エポキシプライマー	—	エスコNBマイルド 塗料用シンナーA	100 0~10	0.14	8時間以上 1ヶ月以内
2	下塗り (2回目)	JASS 18 M-109	変性エポキシプライマー	—	エスコNBマイルド 塗料用シンナーA	100 0~10	0.14	8時間以上 1ヶ月以内
3	研磨紙すり	研磨紙P120~220			—	—	—	—
4	中塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候性塗料	A種 中塗り塗料	セラMDP中塗 塗料用シンナーA	100 0~10	0.14	4時間以上 10日以内
5	上塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候性塗料	A種 上塗り塗料1級	セラMフッソDP 塗料用シンナーA	100 0~10	0.10	—

改修 亜鉛めっき面耐候性塗料塗り B種^{※3} 上塗り塗料1級仕上げ

工程	塗料その他			製品名 希釈剤	希釈率(%)	塗付け量 ^{※1} kg/m ²	塗装間隔 ^{※2} (23℃)	
	規格番号	規格名称	種類					
下地調整 B種	1	既存塗膜の除去						ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化しづらい弱な部分及び錆等を除去し、活膜は残す。
	2	錆の除去						ディスクサンダー、スクレーパー等により、除去する。
	3	汚れ・付着物除去						素地を傷つけないようにワイヤブラシ等により、除去する。
	4	研磨紙すり	研磨紙 P240~320で全面を平らに研磨する。			—	—	—
	5	油類除去						溶剤ぶき
1	下塗り	JASS 18 M-109	変性エポキシプライマー	—	エスコNBマイルド 塗料用シンナーA	100 0~10	0.14	8時間以上 1ヶ月以内
2	研磨紙すり	研磨紙P120~220			—	—	—	—
3	中塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候性塗料	A種 中塗り塗料	セラMDP中塗 塗料用シンナーA	100 0~10	0.14	4時間以上 10日以内
4	上塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候性塗料	A種 上塗り塗料1級	セラMフッソDP 塗料用シンナーA	100 0~10	0.10	—

※1 塗付け量は、公共建築工事標準仕様書、公共建築改修工事標準仕様書に掲載されている数値を記しています。実際に使用する所要量は被塗物の形状や塗装方法などによって変わることがあります。

※2 塗装間隔は、屋外で気温23℃の条件を想定しています。

※3 B種以外の種別の塗装仕様につきましては、最寄りの営業所にお問い合わせ下さい。

施工上の注意事項

- 気温5℃以下、湿度85%以上の施工は避けてください。
- 冬の室内施工の場合は、採暖養生等により雰囲気温度、被塗面温度を5℃以上にしてください。
- 屋内塗装中および塗装後に部屋が密閉されていると、乾燥不良や色相や艶の変化を生じることがありますので十分に換気してください。
- 屋外において降雨、降雪、強風の恐れがある場合は塗装を避けてください。
- 塗装間隔は環境(温度、湿度、換気回数等)や膜厚によって変わります。
- 施工当日に被塗面に結露の発生が予想される場合は施工は行わないでください。
- 長期間結露が継続し発生するような箇所への塗装は避けてください。塗膜剥離、膨れ等の異状が発生するおそれがあります。
- 塗膜の乾燥硬化過程で、結露や降雨等の水分の影響を受けた場合、塗膜の異状(白化、つや引け、フクレ等)につながる場合があります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- 屋外での施工中、施工後間もなく、気象の急変により降雨が生じた場合はシート養生などを行い、塗装面に直接雨がかからないよう対策してください。
- 塗装ダストなどの飛散防止、塗装面以外への付着防止のため必ず養生を行ってください。
- タイル洗浄剤が塗装面に付着した場合、塗装面の変色や早期劣化を生じることがありますので、試験施工で確認の上、本施工を行ってください。
- つや調整品を仕上げる際は、塗り継ぎ部をつくらぬよう注意し、面を切って、通し塗りを行ってください。
- つや調整品は、高温などの乾燥が早い環境下ではツヤムラが生じやすくなります。特に被塗面が直射日光で熱せられ高温になると塗膜の形成肌の凹凸が増え、さらに塗膜厚が不均一になりやすくなるためつやむらが生じやすくなります。
- つや調整品は、膜厚、温度、塗色、塗り回数、塗装方法、希釈率の差などにより艶の発現性が変化します。特に刷毛・ローラー塗装時の塗り継ぎ部で艶むらを生じやすい傾向がありますので、試験施工で確認の上、本施工を行ってください。
- つや調整品で補修の必要が生じた際は、面を切り、通しで塗装してください。(部分的に補修すると一般部とつや差が出て目立ちます。)
- 鉄面の素地調整は、塗膜の耐久性に影響を及ぼす要因のひとつですので、さびの著しい部位は入念にさびを除去してください。
- 塗装間隔は厳守してください。塗装間隔を過ぎた場合は目荒らしを行った後に塗装してください。
- 塗料の希釈率は試験塗装などにより決定し、それ以降は同じ希釈率で塗装してください。
- 被塗物の形状、膜厚や色目、塗り回数、希釈率の差などにより、実際の艶と若干異なって見える場合があります。また塗り継ぎ箇所で艶ムラを生じやすい傾向があります。試し塗りの上、本施工に入ってください。

- ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
- 塗装方法により色相が変化する場合がありますので、一般部がローラー塗りの場合はできる限り入り隅まで入れてください。
- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上り肌や色相に多少差が生じます。
- 旧塗膜に光沢が残っており劣化していない場合には付着不良や塗り重ねチヂミが発生する場合があります。旧塗膜表面の目荒しを行ない、試し塗りによって確認のうえ塗装を実施してください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、剥離、伸縮割れ、粘着などの不具合を生じることがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、本製品に対して塗装適合性のあるノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全に硬化した後に行ってください。また、マルチタイルコンクリートプライマーEPO、シーブラ、水性エポキシを下塗りとする条件で、可塑剤移行による汚染、粘着の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などにより剥離、伸縮割れが起こることがあります。
- 塗装前の部位にワックスやクリーナーなどが残存している場合には、ハジキや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装してください。
- 旧塗膜の種類によっては溶剤の影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れやチヂミなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- 旧塗膜が「塗料用シンナーA」で溶解するラッカータイプの場合、チヂミや旧塗膜の再溶解が発生することがありますので、試し塗りにより事前に確認してください。
- 外壁塗装の足場跡などの補修塗りの際には、硬化剤の入れ忘れに注意し、ベース/硬化剤を正確に計量し配合してから塗装してください。硬化剤の入れ忘れや硬化剤過不足の場合は汚染から発生の原因になります。
- 補修塗りの際は、凹凸肌のちがいが等により、仕上がりに若干の差を生じる場合がありますので、部分的に試し塗りした上で希釈量等を決定してください。
- 補修用として使用塗料の控えは必ずとっておき、ロット、希釈率、塗装方法などの条件を同一にし補修塗装を行ってください。
- 被塗物にかび・藻が繁殖している場合は、下地処理としてかび・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗してから塗装してください。
- 防かび・防藻性は繁殖の抑制の効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、これらの効果が十分に発揮されない場合があります。
- 異なる色を塗り重ねる場合(アクセントで帯状に色を塗り重ねる場合など)は、塗料用シンナーで溶解しないこと(硬化状態)を確認のうえ塗装を行ってください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。

その他の注意事項

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

【予防策】

- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護めがね・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・入り巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
- 火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
- 火災が発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
- 裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

【対応】

- 目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
- 吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
- 火災時は、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

【保管】

- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

【廃棄】

- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)

【施工後の安全】

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。